

生きる力を高め、医療福祉を創造するはばたき福祉事業団
患者が変われば、医療は変わる

助成事業の取り組み

感染者就労のための協働シンポジウム 感染者と企業のための協働ポータルサイト

はばたき福祉事業団では、現在積極的に助成事業に取り組んでいます。今年度は、HIV感染者が社会へ一歩を踏み出し、差別や不安を気にせず働ける環境を目指して「HIV感染者就労のための協働シンポジウム」と「HIV感染者、企業のための就労に関する協働ポータルサイト構築」の2つの助成事業がすでに決定し、動き出しました。

これらの事業のキーワードは「協働」です。HIV感染者への就労支援は、当事者、あるいは企業が単独で成し遂げられるものではありません。就労支援という目標を共有して、それに向かって、当事者もHIVを直視して一歩を踏み出し、企業もそのための整備と努力をし、双方が歩み寄ることで、問題解決に取り組んでいくこと、つまり「協働」が重要なポイントになります。

1つ目の事業は、独立行政法人福祉医療機構（高齢者・障害者福祉基金）の助成によるもので、国や行政、企業が協働して就労支援を考えるシンポジウムを開催します。現在専門家委員会を立ち上げ、論点整理のためのディスカッションを行っています。「働



きたいが、働けていない人」のために「就労機会」をテーマにしたものと「すでに働いている人」のために「就労支援」をテーマにしたものの2つのセッションを設け、その後総括セッションを行います。日時は10月14日(日)午後1時30分から午後4時30分、会場は社会福祉法人全国社会福祉協議会灘尾ホールです。

2つ目は採択率およそ3%という狭き門をクリアしたマイクロソフト株式会社の第5回マイクロソフトNPO支援プログラムの助成です。シンポジウムとの連携を前提に、HIV感染者と企業の協働による就労支援やガイドライン普及など、感染者への就労支援に関する情報をまとめて発信できるホームページを作成し、10月にサイトオープンを目指します。7月5日には助成金授与式が行われ、ダレン・ヒューストン代表執行役社長より目録が贈呈されました。

さらに、厚生労働省が実施する障害者保健福祉推進事業として、「HIV感染に係る障害者自立支援プログラム等研究開発事業」も決定しました。ピアカウンセリング、セルフマネジメントプログラムへの参加を通じて、HIV感染者が身近な人々や社会とのつながりを取り戻し、社会参加の促進を目指します。



和解11周年を記念して



各地から約100名が参加しました。

はじめに薬害エイズ事件で犠牲になった方に黙祷を捧げ、献花による追悼を行いました。柳澤伯夫厚生労働大臣の代理として、医薬食品局総務課医薬品副作用被害対策室・森浩太郎室長が出席し、献花を行いました。また柳澤大臣のメッセージも代読されました。

また、神戸赤十字病院心療内科部長の村上典子氏から「HIV感染被害者遺族のメンタルケアについて」というテーマで特別講演をしていただきました。遺族の健康被害に関する調査研究会の

3月24日、東京・ベルサール九段で「薬害エイズ裁判和解11周年記念集会」が東京・大阪両HIV訴訟原告団・弁護団の主催で行われ、全国

専門委員の立場から、コーディネーターの育成と配置、メンタルケアのマニュアルづくりなどが必要であることを訴えました。なお、この調査研究会でまとめられた報告書については、財団法人友愛福祉財団のホームページ(<http://www.jfap.or.jp/ui/ptsd/index.html>)に掲載されておりますので、ご覧ください。

次に、4人の被害者が自らの被害の現状を語りました。東京原告で肝移植手術を受けたある患者は、医師から「来るのが遅かったね」と言われるほど危険な状態だったこと、18時間に及ぶ手術が無事成功し、翌日ドナーの父と握手をしたことなど、生と死の狭間を生き抜いてきた壮絶な体験を語ってくれました。この語りには、この日出席した森室長の心も強く動かし、大臣協議での被害者の訴えにもなりました。和解から11年を経過した今も被害者の置かれている現状が厳しいものであることが、あらためて参加者全員の胸に強く刻まれました。



メモリアルコンサートで 薬害エイズ被害を 社会に伝えていきます

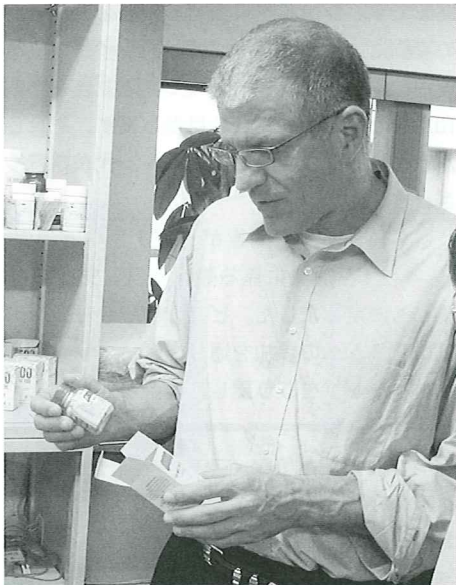


2月28日、「第3回はばたきメモリアルコンサート」が行われ、当日は北風の強いあいにくの天気にもかかわらず、多くの方が足を運んで下さいました。ありがとうございました。

今回のコンサートでは、安田祥子さんが「6つの子守歌」等を歌って下さいました。語りを変えながら、時には笑いもあり、楽しいひと時を作り出して下さいました。期待の若手音楽家として登場したのは、ギタリストの松尾俊介さん。コンサートのトップバッターとしてたいへん緊張したそうですが、フレッシュな演奏で楽しませて下さいました。今回初めて4人のメンバーが勢ぞろいしたモルゴーア・クアルテットは、池辺晋一郎先生が薬害HIV被害者への思いを込めて作曲した「やすらぎの翼」を演奏、また石岡久乃さんとのピアノの共演も聴き応え充分でした。アンコールは「愛のあいさつ」。声楽家の安田さんと、この日登場した全ての演奏者とのコラボレーションとなったこの演奏は圧巻でした。

来年第4回は2月29日(金)、会場は日本大学カザルスホールにて開催いたします。新たに、今最も注目を集めるフルート奏者の高木綾子さん、期待の若手アーティストとしてハーブの津野田圭さんの出演が決まりました。もちろん、石岡さん、モルゴーア・クアルテットの皆さんも出演します。音楽監督の池辺先生は、来年に向けていろいろな企画を考えて下さっています。来年2月を、今から楽しみにして下さい。そしてこれからも、音楽を通じて薬害エイズ被害を社会に伝えていくために、意義あるコンサートが続けていきたいと思っております。

血友病連盟 会長が来日



世界血友病連盟(WFH)のマーク・スキナー会長が、事務局のアジア西太平洋地域担当者ロバート・リャン氏を伴い、6月5日に来日しました。韓国、中国、台湾、ベトナム、タイなどアジアの国々を視察し、その途中、昨年WFHに正式加盟した「血友病とともに生きる人のための委員会(JCPH)」の活動を見るとともに、厚生労働省やエイズ治療・研究開発センター(ACC)などへ表敬訪問を行いました。JCPHから仁科豊委員長をはじめ3名、はばたき福祉事業団から3名が同行しました。

会長らは6日午前中、ACCを見学し、外来、医療情報室、病棟を見て廻りました。

医療情報室では、立川夏夫同室長から、ACCで診ている200人ほどの薬害エイズ被害患者の病状推移や現況、HIV/HCV重複感染症例の肝臓治療の現状、そしてインヒビターを持つ患者の治療についてスライド等で1時間半ほど説明を受けました。会長自身peg- INF +リバビリン治療中のなか海外視察に出ています。

す。

センター長室では岡慎一センター長と懇談。ACCから過去4回WFH世界大会に血友病治療を担当している医師を派遣していることも話題にのぼりました。

午後は厚生労働省を訪問。血友病患者の医療や薬害エイズ感染被害患者の救済医療の窓口である健康局疾病対策課に向かい、梅田珠実課長、同課課長補佐と面談。前会長のブライアン・オマホーニー氏も疾病対策課長を訪問したことや、一昨年JCPH設立記念シンポジウムで、同課の前課長補佐が厚生労働省を代表して祝辞を述べられた経緯などを、私どもから説明しました。

WFHからは、小児の血友病患児の教育と治療の重要性について説明がありました。またJCPHが日本、世界に広めている血友病児のための絵本『こんな時どうする』(JCPH/ももくり柿の木社)が中国で翻訳され、中国の「こどもの日」に発表され高く評価されたことを報告しました。同絵本は、タイ語にも翻訳されWFHバンコク大会でも発表、その後韓国の血友病患者会が韓国語版を発刊しました。

疾病対策課訪問の後、血友病の治療製剤とその対応を所管している医薬食品局血液対策課の関英一課長、植村展生企画官、薬害エイズ被害救済の窓口である医薬品副作用被害対策室の森浩太郎室長の3人と話し合いを持ちました。

関課長が厚生労働省を代表して来訪歓迎の挨拶をした後、WFH会長からは、アジアの血友病患者に日本の安全な血液製剤が行き渡る方法があると嬉しいこと^(※)、その工夫や医療格差のない環境をつくって欲しいこと、世界の血友病患者の約22%にインヒビターが発生しており、WFHでもその解明や治療についてチーム



をつくって対応していることなどを報告。インヒビター製剤の開発や新たな治療法への取り組みに関心を持って欲しいと要請しました。さらに、WFHが行っている世界の血友病患者のための活動や日本のJCPHの活動に対する理解を求めるとともに、日本が血友病患者の医療、福祉に力を注いでいることを評価しました。

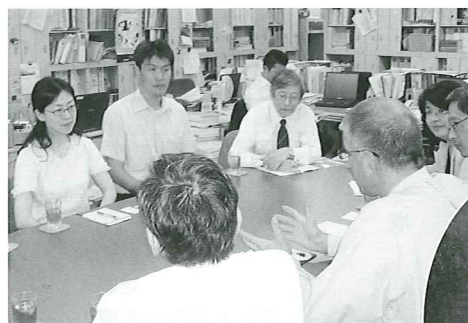
また、小さい時から命や血液・献血に関心をもてるようにと、はばたき福祉事業団が厚生労働省の協力を得て作った絵本『ぼくの血、みんなの血』（ももくり柿の木社）を賞賛され、厚生労働省口ビーに展示してある同絵本をあらためて見に行きました。

その後、玄関脇に設置されている薬害根絶「誓いの碑」に赴きました。碑の設立経緯と、この碑が薬害エイズの被害を永遠に忘れないよう伝え続けていくことの象徴となっていることを説明しました。会長は何枚も写真を撮っていました。

夕方、はばたき福祉事業団へも来ていただきました。はばたきライブラリーでは、70年代初期からのWFHの古い会報や全国ヘモフィリア友の会会報の創刊号など、貴重な収蔵図書を熱心に閲覧されていました。過去には、前会長もここで70年代のWFH会報等に関心を持って見ていたことを思い出します。

ライブラリーに展示してある約40年前に発売された中国の内服用血友病製剤『血寧片』を見つけ、とても関心を示し、ピーナッツの薄皮で作られているという『血寧片』の写真も撮っていかれました。

会長らは、翌日大阪へ向かい、大阪在住のJCPH委員らが同行し、日本の血友病治療の草分けである奈良県立医科大学を訪問、吉岡章小児科教授に会いました。



血友病犬



同大学では、世界でも3施設でしか飼育されていないという貴重な血友病犬に会ったそうです。血友病犬は親、きょうだいと共に暮らしているのですが、会長が会った日は、後ろ足の太ももが内出血して腫れていたそうでした。治療は他の犬から採血されて作った「犬クリオ」を使うとのことでした。大阪では地元の血友病患者会で高校生と懇談し、会長は「患者のリーダーとなって活躍を期待している。来年、WFHイスタンブール大会に来て欲しい」と激励されたそうです。

わずか4日間という短い滞在でしたが、血友病医療の基盤を政策的に支えている人たちと会っていただきました。この後会長はモントリオールのWFH本部へ、ロバート氏はベトナムへ、それぞれ向かっていきました。

※東南アジアでは感染症等の不安のない安全な血液製剤を使える患者はまだ少ない。そのため、フィリピンやインドネシアなど日本の献血でつくられた血液製剤を使いたいとの希望が高い。また、ネパールのように自国でつくれる技術提供を希望している国もある。

平成19年度 社会福祉法人会計総括表

貸借対照表

事業活動収支計算書

資金収支計算書

(自)平成18年8月30日 (至)平成19年3月31日 (単位:千円)

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業
資産の部			
流動資産	52,545	21,763	30,782
固定資産	347,928	347,928	0
(基本財産)	100,000	100,000	0
(その他の固定資産)	247,928	247,928	0
資産の部合計	400,473	369,691	30,782
負債の部			
流動負債	3,413	3,300	113
固定負債	0	0	0
負債の部合計	3,413	3,300	113
純資産(資本)の部			
基本金	10,000	9,000	1,000
資本金	0	0	0
国庫補助金等特別積立金	1,211	1,211	0
その他の積立金	217,948	217,948	0
次期繰越活動収支差額	167,901	138,232	29,669
(うち当期活動収支差額)	167,901	138,232	29,669
純資産(資本)の部合計	397,060	366,391	30,669
負債及び純資産の部合計	400,473	369,691	30,782

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業
事業活動収支			
事業活動収入(1)	305,429	269,634	35,795
事業活動支出(2)	48,210	42,077	6,133
事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	257,219	227,557	29,662
事業活動外収支			
事業活動外収入(4)	108	101	7
事業活動外支出(5)	0	0	0
事業活動外収支差額(6)=(4)-(5)	108	101	7
經常収支差額(7)=(3)+(6)	257,327	227,658	29,669
就労支援事業収支			
就労支援事業収入(8)	0	0	0
就労支援事業支出(9)	0	0	0
就労支援事業活動収支差額(10)=(8)-(9)	0	0	0
特別収支			
特別収入(11)	139,774	138,774	1,000
特別支出(12)	229,200	228,200	1,000
特別収支差額(13)=(11)-(12)	-89,426	-89,426	0
税引前当期活動収支差額(14)=(7)+(10)+(13)	167,901	138,232	29,669
法人税、住民税及び事業税負担額(15)	0	0	0
当期活動収支差額(16)=(14)-(15)	167,901	138,232	29,669
繰越活動収支			
前期繰越活動収支差額(17)	0	0	0
当期末繰越活動収支差額(18)=(16)+(17)	167,901	138,232	29,669
基本金取崩額(19)	0	0	0
基本金組入額(20)	0	0	0
その他の積立金取崩額(21)	0	0	0
その他の積立金積立額(22)	0	0	0
次期繰越活動収支差額(23)=(18)+(19)-(20)+(21)-(22)	167,901	138,232	29,669

勘定科目	合計	社会福祉事業	公益事業
経常活動収支			
經常活動収入(1)	305,495	269,693	35,802
經常活動支出(2)	47,273	41,140	6,133
經常活動収支差額(3)=(1)-(2)	258,222	228,553	29,669
就労支援事業収支			
就労支援事業収入(4)	0	0	0
就労支援事業支出(5)	0	0	0
就労支援事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0
施設整備等収支			
施設整備等収入(7)	29,814	29,814	0
施設整備等支出(8)	30,956	30,956	0
施設整備等収支差額(9)=(7)-(8)	-1,142	-1,142	0
財務活動収支			
財務活動収入計(10)	110,000	109,000	1,000
財務活動支出計(11)	317,948	317,948	0
財務活動収支差額(12)=(10)-(11)	-207,948	-208,948	1,000
予備費(13)	0	0	0
当期資金収支差額合計(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	49,132	18,463	30,669
前期末支払資金残高(15)	0	0	0
当期末支払資金残高(14)+(15)	49,132	18,463	30,669

平成19年度 資金収支予算表 (会計基準適用)

(自)平成19年4月1日 (至)平成20年3月31日

勘定科目		合計	社会福祉事業	公益事業	
経常活動による収支	収	経常経費補助金収入	32,000,000	29,500,000	2,500,000
		寄附金収入	3,500,000	1,500,000	2,000,000
		雑収入	1,200,000	1,200,000	0
		賛助会費収入	1,000,000	1,000,000	0
		雑収入	200,000	200,000	0
		受取利息配当金収入	15,000	15,000	0
		経理区分間繰入金収入	27,000,000	27,000,000	0
	経常収入計(1)	63,715,000	59,215,000	4,500,000	
	支	人件費支出	18,150,000	18,150,000	0
		事務費支出	54,485,600	49,282,600	5,203,000
事業費支出		3,692,000	2,492,000	1,200,000	
経理区分間繰入金支出		27,000,000	27,000,000	0	
経常支出計(2)	103,327,600	96,924,600	6,403,000		
経常活動資金収支差額(3)=(1)-(2)		△ 39,612,600	△ 37,709,600	△ 1,903,000	
施設整備による収支	施設整備等収入(4)	0	0	0	
	施設整備等支出計(5)	0	0	0	
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	0	0	0	
財務活動による収支	財務収入計(7)	39,000,000	39,000,000	0	
	財務支出計(8)	0	0	0	
	財務活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	39,000,000	39,000,000	0	
予備費(10)		0	0	0	
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		△ 612,600	1,290,400	△ 1,903,000	

前期末支払資金残高(12)	49,132,162	18,463,047	30,669,115
当期末支払資金残高(11)+(12)	48,519,562	19,753,447	28,766,115

エイズ治療・研究開発センター(ACC)が 4月で10周年を迎えました



日本のHIV医療の司令塔であり、HIV被害者の救済医療の砦でもあるエイズ治療・研究開発センター(ACC)が4月で10周年を迎えました。それを記念して、5月18日には設立10周年記念式典が行われました。式典には所用で出席できなかった柳澤伯夫厚生労働大臣の代理として辻哲夫事務次官があいさつを読み上げました。

また、7月7日にはACC設立10周年記念シンポジウムが行われ、この10年の間にACCに関わった多くの方が集まりました。この日は、最初の抗HIV薬「AZT」を開発された満屋裕明教授(熊本大学医学薬学研究部血液内科学分野)が講演をされました。冒頭で「サイエンティストはパリのファッションよりもはるかにカッコいい!」と、人

々の苦しみを取り除き、日常を豊かにする科学の素晴らしさを熱く語られていました。また、感染者数が毎年増加している一方で、エイズ対策予算が減少していること、ジャーナリズムの関心が低下していることに触れ、日本の現状に強い危機感を訴えていました。

ACCは昨年患者数が2,000名を超えました。またACCで実施している研修に全国各地から参加した医療者も1,000名を超え、ACCの役割の重要性を強く実感します。今後も日本のHIV医療の牽引役として、岡慎一センター長はじめ、ACCスタッフには、いっそうの期待をしたいと思いません。



遺族支援の取り組みが 始まります

当事業団では遺族の健康被害の問題に当初から取り組んできましたが、2000年頃から遺族の心的外傷後ストレス障害（PTSD）の問題を取り上げてきました。東西合同による全国調査や遺族研究会等を行ってきました。こうした取り組みの結果、精神保健福祉士（PSW）などの配置や遺族の健康被害に対する手引書の作成が実現しました。



遺族研究会



大分県保険医協会ペットボトル募金



大分県保険医協会では、薬害エイズ被害者の支援のために、県内各地の医療機関にペットボトルを配布して、HIV薬害被害者支援募金の協力を呼びかけています。この貴重な支援募金は毎年はばたき福祉事業

団にご寄付をいただいております。今年も、1月27日に大分県保険医協会の賀来進副会長をはじめ、4名の方が事務所に来訪され、今年度の寄附金30万円を頂戴いたしました。毎年支援募金にご尽力いただいている大分県保険医協会の皆様、そして募金にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

そして、この支援募金は今年で10回目を迎えました。記念すべき10回目となった今回で、これまで集まった募金の総額は600万円となりました。

はばたき設立以来、毎年変わることなく支援して頂いていることに、本当に感謝しております。そして、600万円もの多額の募金につながったことには、正直驚きました。あらためて継続の力の偉大さとご支援を頂いた皆様の心の温かさを感じました。

はばたきの事務所には、10年前に募金を始めたときのペットボトルをずっと置いております。それを見た保険医協会の皆様は、懐かしそうに当時のことをお話されていました。賀来副会長は「この事件を風化させてはいけません。このペットボトル募金は未来永劫続けていきます」と語り、この意義のある活動をこれからも続けていくとのことでした。

はばたきとして、これまでの募金活動と温かいご支援に敬意を表し、大分に伺って、保険医協会の皆様に感謝の意を述べたいと

思います。そして、支援募金を頂いた皆様の思いにえられるよう、今後も被害者の恒久対策や薬害再発等の事業にまい進していきます。

これまでの募金贈呈

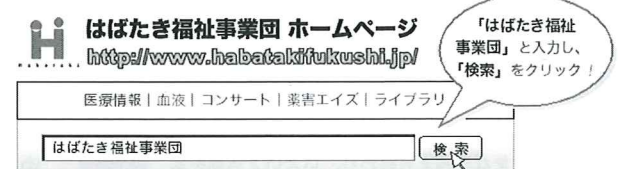
第1回	1,501,712	平成9年7月14日
第2回	867,440	平成10年7月9日
第3回	610,000	平成11年9月17日
第4回	831,321	平成12年11月16日
第5回	300,000	平成13年12月10日
第6回	500,000	平成14年12月19日
第7回	386,625	平成16年1月26日
第8回	350,000	平成17年1月25日
第9回	352,902	平成18年1月30日
第10回	300,000	平成19年1月27日
合計	6,000,000	

ホームページのご案内

今、もっとも期待されている抗HIV薬「インテグラーゼ阻害薬」をご存知ですか？ 来年の「はばたきメモリアルコンサート」の演奏者の方をご存知ですか？ はばたきホームページには、そんな情報がいっぱいあります。

URLは<http://www.habatakifukushi.jp>です。

「そんな入力、面倒だ」という方でも大丈夫。検索サイトで「はばたき福祉事業団」と入力して、「検索」ボタンをクリックしてください。そうすれば、すぐにはばたきホームページにアクセスできます。



北海道支部

交流会・講演会を開催

12月に「法人化記念パーティー～感謝と旅立ちの夕べ」を開催し、道、札幌市、北大病院などから関係者・支援者にご参加いただき、今後の活動への決意を新たにしました。

3月には旭川で恒例となっている「患者交流会」を開催。また初めての試みとして「旭川地区看護ネットワーク」の集まりを行い、患者の思いを聞いていただきながら交流を深めました。5月には北大整形外科で症例が増えている血友病患者の関節置換術について講演をお願いしました。

東北支部

相談会を準備中

現在、相談会等の準備に取り組んでいます。今年度は医療を中心とした講演会だけではなく、生活上

の悩みや就労など、日頃なかなか話し合う機会のない話題についても率直に話ができるような小人数でのグループ相談会の開催等を視野に入れて計画を立てています。抱えている問題は様々ですが、そこで寄せられた率直なご意見を共に考えながら、問題を解決につなげていける相談会の開催を目指しています。

中部支部

一人ひとりの被害者を

今年は原告団総会を岐阜で開催し、全国から被害者が岐阜に集まりました。久しぶりに顔を見る地元の被害者もあり、近況をお聞きしたりしました。こういう場でお会いできない被害者もいます。今年度はそういった方を中心に、きめ細かく被害者の方への訪問を進めていき、ひとりひとりの現状、問題点を把握し、これからの支部活動につなげていきたいと考えて

います。

九州支部

活動を再開して

今年始めから、職員の体調不良等が続き、支部としての活動が十分にできない状態が続いていました。皆様にはご迷惑とご心配をおかけしまして、大変申し訳ございませんでした。7月以降、徐々にではありますが、活動を再開しています。

今年11月に九州支部が開設されて10年になります。この10年間を振り返り、評価と反省を踏まえたうえで、今後の事業の進め方について考えていきたいと思ひます。



賛助会員数 2007年7月末現在

学 生	688名 (881口数)
個 人	14名 (14口数)
団 体	45団体 (101口数)

● 賛助会員募集中 ●

学生会員	年間	一口	1,000円
個人会員	年間	一口	3,000円
団体会員	年間	一口	10,000円

- ・はばたき福祉事業団の運営を安定させるために、賛助会員を募集しています。ご家族やお知り合いの方にも声をかけて頂けると幸いです。
- ・賛助会員の皆さんには、ニュースをお送りします。
- ・お申し込みは、郵便振替用紙に住所・氏名等ご記入の上、会費を添えて、郵便局からお振込み下さい。

残暑お見舞い申し上げます

日頃より格別のご高配賜り厚く御礼を申し上げます。社会法人として設立されてから、1年が経とうとしております。その間、H I V感染者や血友病患者等の障害者への相談事業を中心に事業を進めてまいりました。

10月14日に難尾ホールにて「H I V感染者就労のための協働シンポジウム」を開催いたします。H I V感染者が社会へ一歩踏み出し、差別や不安を気にせずすむ就労環境を目指します。

平成19年 盛夏

【郵便振替】

口座番号：00130-4-409457
名義：社会福祉法人 はばたき福祉事業団

※活動を進めるための大きな力となるご寄付もよろしくお願い致します。

■ 編集後記

法人化のさまざまな手続きも終わり、いよいよ活動を本格開始しなければならない。助成金による事業も決まり、試される日々が始まる。(す)



社会福祉法人
はばたき福祉事業団

本 部	〒162-0814 東京都新宿区新小川町9番20号 新小川町ビル5F TEL 03-5228-1200 FAX 03-5227-7126
北海道支部	〒064-0805 札幌市中央区南5条西10丁目 サンハイツ南5条1005号 TEL/FAX 011-551-4439
東北支部	〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町7-14 銀杏ビル102号 TEL/FAX 022-791-9270
中部支部	〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35 ハイエスト久屋5F 柴田・羽賀法律事務所気付 TEL/FAX 0583-89-4909
九州支部	〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-2-5 東峰マンション第一西公園303号 TEL/FAX 092-717-6329